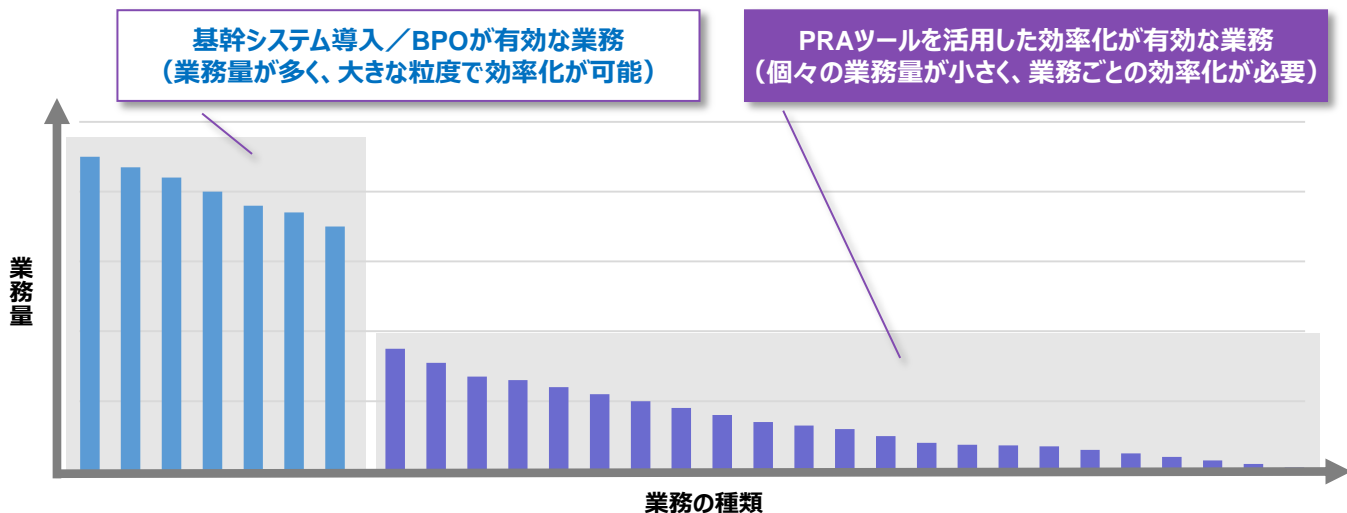


RPA (Robotics Process Automation) 導入サービス

RPAツールを活用した少量多品種系業務の効率化を支援

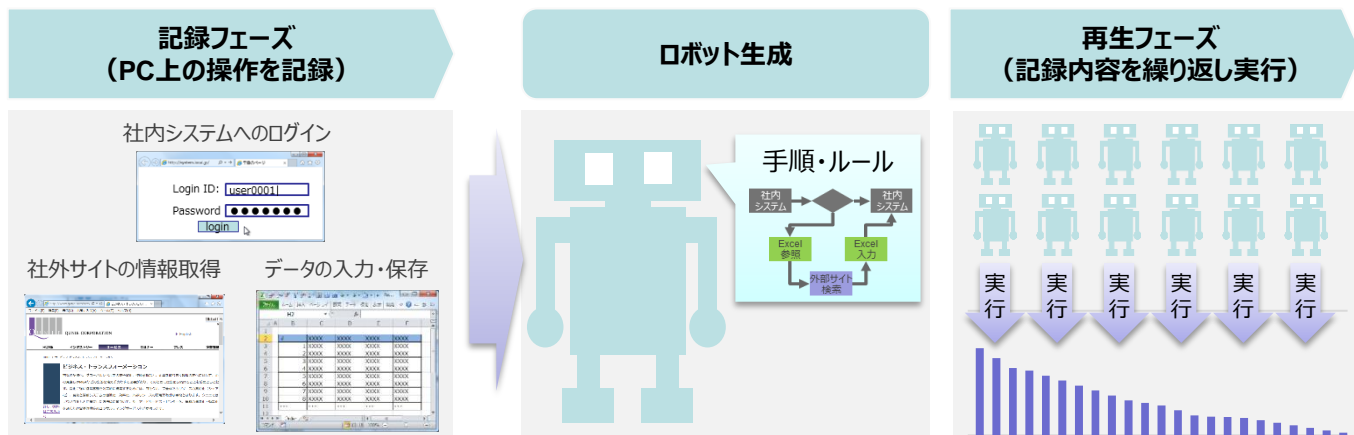
業務量削減の手段として、業務横断的なシステム導入によるBPR、社外へのBPO(Business Process Outsourcing)が有効ですが、これらの手段は業務量の大きな業務に適しています。一方で、業務量が小さな業務は人手に頼った非効率な状態に留まっている実態があります。

QUNIEは、バックオフィス部門の生産性向上と人的資源の有効活用の推進を目的として、業務量が小さな少量多品種業務を効率化するためのRPAツールを活用した業務の自動化を支援いたします。



RPAの利用イメージ

RPAツールは、「記録」と「再生」の2つのフェーズで利用します。記録フェーズではユーザーのPC操作をロボットに覚えこませてロボットを作成し、「再生」フェーズでは作成したロボットが記録した手順やルールに則って実際の業務を行います。



RPAの求められる背景

マーケット・政治的な背景、テクノロジー的な背景の両方の面から、人工知能を活用した業務の自動化の必要性が高まっています。



RPAツールの強み

人が業務を行うことと比較して、RPAには業務品質、業務効率、要員調達の柔軟性3つの点でアドバンテージがあります。

業務品質	業務効率	要員調達の柔軟性
ノミス	処理スピードの高さ	繁忙の波に柔軟に対応
不正の防止	24時間365日	不要になったら廃棄できる

RPAを活用した業務改善事例

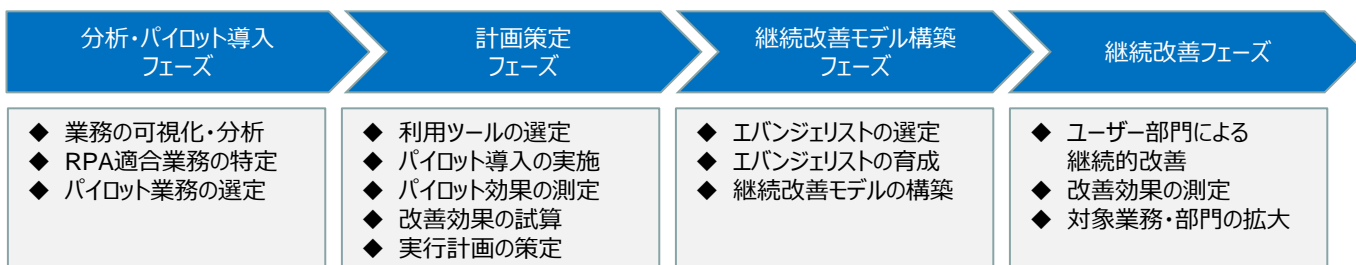
RPAツールは、少量多品種業務の中でも、チェック業務、機械的反復業務、複数システムに跨る業務において特に有効に機能します。RPAツールの活用には、これらの特性に合致する業務を特定することが重要です。

チェック業務	×	機械的反復業務	×	複数システムに跨る業務
〈領収書の突合〉 領収書の内容を読み取り、経費精算申請と突合		〈採用応募者へのメール送信〉 採用サイト登録者の情報を抽出し、応募者に自動でメール送信		〈顧客システムへの登録〉 受注システムから新規顧客を抽出し顧客システムに自動登録
〈物品購入額の妥当性チェック〉 Webサイトを巡回し、物品購入の金額が市価よりも高額になっていないかを確認		〈Webサイト情報収集〉 競合のサイトを巡回し、最新の価格情報を収集		〈注文書の誤入力チェック〉 受注システムと配送システムの情報を比較し、誤入力の情報を抽出

QUNIEのサービス

導入アプローチ

QUNIEが支援した数多くのBPR、SSC/BPOプロジェクトで培った業務分析手法をもとにRPAの適用領域を特定するとともに、継続的な改善の定着までを見据えた導入を支援します。



導入ポイント

RPA導入は基幹システム導入やBPOと異なり、既存の業務手順やシステムを踏襲し、パイロット導入による短期的効果を狙いつつ、ユーザー部門が主となり継続的な改善を行う体制を構築することが重要です。

	基幹システム導入/改修	BPO導入	RPAツール導入
業務プロセス変更	あり	あり	なし
システム変更	システムの刷新/改修	業務全体にワークフロー適用	既存システム維持 (RPAツール導入のみ)
導入コスト	中～大	中～大	小
導入主体	システム部		ユーザー部門
導入期間	長期/一時的	中期/一時的	短期/継続的